

シカの足跡、
ダブルびっくり!!

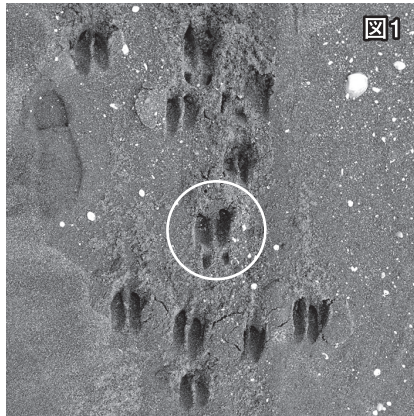
近年は生息数が急増して、市街地に出没することも多くなったエゾシカ。農作物を荒らしたり、道路に飛び出して車と衝突することも増えています。いしかり砂丘の風資料館のそば、海水浴場や温泉のある石狩浜周辺でも、走り回っている姿を見かけたことは何度もありますし、砂浜に足跡が続いていることは全然珍しくありません。

ところで、シカの指は何本か知っていますか? 「偶蹄類だからひづめ(蹄)が2つ、2本指でしょ」と思ったあなた、違うんですよ。その証拠に石狩浜に残された足跡を、よくよく見てみましょう(図1)。二つの足跡の多くは、確かに2本だけひづめの跡がくつきりと付いています。でもよく見ると、その下に、小さい穴が2つ空いている足跡もあるのが見えますか? まるで「!!」、ダブルびっくりマークです。

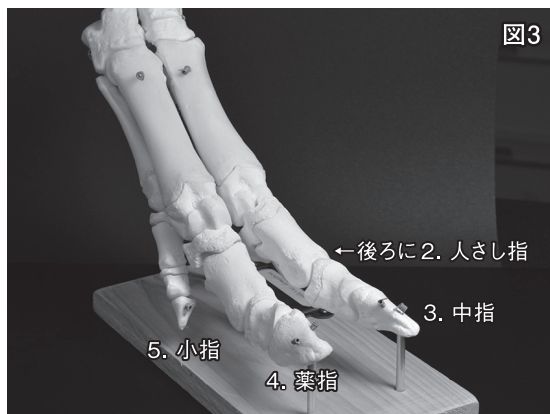
この小さい穴は「副蹄」が着いた跡です。シカやウシ、イノシシなどの偶蹄類には大きなひづめが2本(偶数)ありますが、実はそれだけではありません。もう2本、小さなひづめⅡ副蹄もあるのです。そう、シカは4本指なのです(図2)。目立つ2本の主蹄は第3指(中指)と第4指(薬指)、副蹄のほうは第2指(人さし指)と第5

指(小指)に当たります。シカは普段、中指と薬指だけで歩いているのですが、軟らかい砂地や雪の上で足先が深く沈むと、人さし指と小指も着地し、足跡に2つの小さな穴が増えるのです。

同じ偶蹄類でも、イノシシやウシシを家畜化したブタの副蹄は、もっとはつきりしています。ブタの足、つまりスパーでも売っている豚足を骨格標本にして見てみると、しっかりと4本の指の骨があることが分かります(図3)。シカもブタも遠い昔、その先祖はわれわれ人間と同じ5本指だったものが、肉食動物から逃げるために速く走れるよう、主蹄の2本だけが発達し、ほかの指はどんどん退化していった結果です。シカやブタでは人さし指と小指はすっかり小さくなり、



石狩浜のシカの足跡。4つ穴が空いているものもある。



豚足(右後足)の骨格標本。第2指(人さし指)から第5指(小指)まで、指が4本あることが分かる。第1指(親指)は退化して消えている。



エゾシカの副蹄(左前足)。人さし指と小指に当たる。写真では小指だけが見えている。

親指は完全に消えてしまったのです。なんてことはない砂浜の足跡や食卓の豚足にも、実は何千万年もの生命の歴史が隠れているのです。

(志賀健司)



石狩市学芸員
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物理学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館